

農作物技術情報 第2号の要約

令和3年 4月22日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況：播種作業は終盤を迎えている。苗の生育は概ね順調である。</p> <p>技術対策</p> <p>育苗管理：こまめな温度・水管理に努める。特に低温時の苗立枯れ、高温時の細菌病発生に注意。イネばか苗病が発生した場合には、粃ごと苗を抜き取り、本田に持ち込まないように努める。</p> <p>田植え：天気の良い日を選んで田植えを行う。適正栽植密度・植付本数・植付深さを守る。好天時は生育を促進するため浅水とし、強風・低温時は苗を保護するため深水とする。</p> <p>雑草防除：除草剤は雑草の種類や使用時期に応じて選択する。散布時期や方法を厳守する。</p> <p>葉いもち予防：稲わら・粃がらは育苗施設付近に置かない。取置苗は土中埋没等で直ちに処分する。</p>
畑作物	<p>生育状況：小麦の生育は平年よりも3日程度進んでおり、生育量も大きい。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦 追肥作業：減数分裂期以降の後期追肥は、生育量や生育ステージを確認して適切に実施する。</p> <p>赤かび病防除：赤かび病の防除は、開花始期～盛期に必ず実施する。</p>
野菜	<p>生育状況：施設果菜類は苗の生育が例年よりやや早く、順次定植が行われている。露地葉菜類はレタスやねぎの苗の生育が例年より早く、順調に定植作業が実施されている。</p> <p>技術対策</p> <p>施設果菜：天候に応じて朝晩は保温資材・補助暖房を活用して保温を行うほか、日中は高温になりすぎないように換気に努める。灌水の必要がある場合、日中の気温が高いうちに行い適湿を保つ。</p> <p>露地葉菜類：定植後はべたがけ資材で植え傷みや凍霜害を回避し、適切な時期に除去する。</p> <p>雨よけほうれんそう：ホウレンソウケナゴコナダニの防除対策を徹底する。</p>
花き	<p>生育状況：露地りんどうは、平年より生育が進んでおり、株仕立て作業が始まっている。小ぎくの親株の生育は順調で、挿し穂が確保され、挿し芽作業は順調に行われている。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう：株仕立て等の作業を適期に進めるとともに、圃場が乾燥する場合はかん水を行う。</p> <p>小ぎく：育苗、定植、摘心作業を計画的に進める。</p>
果樹	<p>生育状況：りんごの生育ステージは、開花直前となっており、平年より10日程度早い生育となっている。</p> <p>技術対策：現在、凍霜害に弱い生育ステージとなっているので、毎日の気象情報に注意し、園地に霜溜まりを作らない、燃焼法の準備する等、被害軽減対策の徹底を図る。</p> <p>りんご：結実確保のために人工授粉の徹底と、大玉生産及び隔年結果防止を図るため、摘花剤・摘果剤を積極的に利用しながら、早期の適正着果を図る。</p>
畜産	<p>技術対策</p> <p>飼料用とうもろこし：品種選定と基本技術を再確認する。適切な栽植密度で播種を行う。また、収量確保には初期生育が重要なため、播種床の形成、雑草・害虫の防除を確実に行う。</p> <p>乳牛：日中の暑熱対策を開始する。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全：事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は令和3年5月27日発行の予定です